

答え合わせ・解説

問1	答え 4 遣唐使	遣唐使は、天皇の命を受けて唐へ派遣された公式の外交使節団です。留学生や僧侶も同行し、帰国して新しい仏教（密教）や学問、技術を日本に持ち帰りました。しかし、894年に菅原道真の建議により停止されるまで、多くの人々が命がけで海を渡りました。これにより、日本は当時の東アジアの先端文化を吸収し、発展の礎を築くことができました。
問2	答え 2 紫式部	紫式部は藤原道長の娘に仕えた女房であり、宮廷社会の複雑な恋愛や人間模様を描いた長編小説『源氏物語』を執筆しました。当時の貴族の優雅な生活や、内面的な感情まで細やかに描き出したこの作品は、日本文学の最高峰とされています。
問3	答え 3 空海	空海は遣唐使として唐へ渡り、恵果から密教の教えを授かりました。帰国後、嵯峨天皇から京都の教王護国寺（東寺）を賜るとともに、和歌山県の高野山を修行の拠点として真言宗を開きました。密教は、経典の言葉だけでは表せない深い教えを、仏像や曼荼羅、印や真言などを使って表現するのが特徴です。
問4	答え 1 藤原道長	藤原道長は、娘を次々と天皇の妃として入内させることで、天皇の外戚として揺るぎない地位を確立しました。この強力な血縁関係を武器に、政治の決定権を独占し、藤原氏による統治の最盛期を現出させました。
問5	答え 3 紫式部	紫式部は、藤原道長の娘に仕えながら、『源氏物語』を執筆しました。この物語は、主人公である光源氏の栄華と没落を通して、人間の心理や当時の貴族社会を克明に描き出しました。
問6	答え 1 院庁	院庁は、院政における実務的な行政機関であり、上皇の意志を国家政策として実行する役割を持ちました。ここで出される命令は「院宣」と呼ばれ、強い権力を持っていました。組織として整備されることで、摂関政治とは異なる独自の政治体制が確立されました。
問7	答え 1 藤原頼通	藤原頼通は、摂政・関白として約50年間政治の実権を握りました。当時、貴族たちの間では自分の財力や権力を誇示しつつ、極楽浄土に往生したいという切実な願いがありました。頼通はそれに応えるように、京都の宇治の地に壮大な平等院鳳凰堂を建立し、阿弥陀如来像を安置させました。
問8	答え 2 藤原道長	藤原道長は、四人の娘を次々と天皇の后とすることで、揺るぎない地位を築きました。自身が摂政や関白になることもありましたが、それ以上に天皇の外戚という立場で朝廷を掌握しました。彼が詠んだ歌は、自身の権勢が満月のように欠けるところがないと誇る自信に満ちたものです。
問9	答え 4 摂政	摂政は天皇が幼少の際に代理として政治を行う役職であり、成人後は関白として補佐しました。藤原氏は一族から天皇の后を出すことでこの地位を世襲し、朝廷の政治を思いのままに動かしました。
問10	答え 2 藤原純友	藤原純友は、瀬戸内海を拠点とする海賊のリーダーとして勢力を持ち、朝廷に対して反旗をひるがえしました。同時期に関東で平将門が起こした乱と合わせて「承平・天慶の乱」と総称されます。海と陸の二大拠点で同時に反乱が起きたことは、朝廷の地方支配の弱体化を如実に示しました。
問11	答え 1 北面の武士	白河上皇が御所の北側に部屋を設けて警護させたことから「北面の武士」と呼ばれます。彼らは単なる警備員ではなく、実力行使の手段として上皇の信頼を受け、次第に政治的な発言力を持つようになりました。
問12	答え 1 厳島神社	平氏一族は、安芸国にある厳島神社を厚く信仰し、社殿を豪華に造り替えました。海に浮かぶようなその姿は、当時の建築技術の高さと、貴族化した平氏の優雅な文化を今に伝えています。
問13	答え 1 徴税権	10世紀頃、朝廷は国司に一定額の税収を保証させる代わりに、徴税権や地方の行政権を大幅に委譲しました。これにより国司は現地の経済を支配し、大きな利益を得られるようになりました。
問14	答え 1 東北地方	東北地方には、朝廷の支配に従わない人々が生活しており、朝廷側は彼らを「蝦夷」と呼んで服属させようとしていました。朝廷は多賀城などの拠点を作り、軍事的に征討を試みましたが、
問15	答え 4 国司	国司は地方の政治や徴税を一手に引き受ける地方官です。この職に就くことは、地方の富を吸収できるため、貴族たちにとって大変うまみのあるポストとされていました。
問16	答え 4 新皇	平将門は勢力範囲を支配下におくと、朝廷から認められない権力として、あえて「新皇」という称号を名乗りました。これは単なる地方の反乱を超え、中央政府である朝廷に対する真っ向からの挑戦を意味していました。